

丸亀城管理室だより No.21

石垣の積上げが始まりました！

8月20日から、いよいよ崩落した石垣の積上げ作業が始まりました。

記念すべき第1石目として、多くの関係者や報道陣、見学者が見守る中、帯曲輪石垣南西角部の根石が配置されました。配置後も、石工さん達が2時間以上かけて、ミリ単位で慎重に高さや角度を調整しました。この日以降も引き続き積上げ作業が行われています。



【クレーンによる根石の吊り上げ】



【根石の配置中】



【配置を終えた後の根石】

積上げが始まるまでの概要

平成30年7月から10月にかけて、大雨や台風の影響で、丸亀城南西部の帯曲輪石垣および三の丸石垣が崩落しました。

さらなる崩落を防ぐため、同年11月から応急対策工事に着手し、翌年6月に完成しました。



令和元年6月 応急対策工事完了時

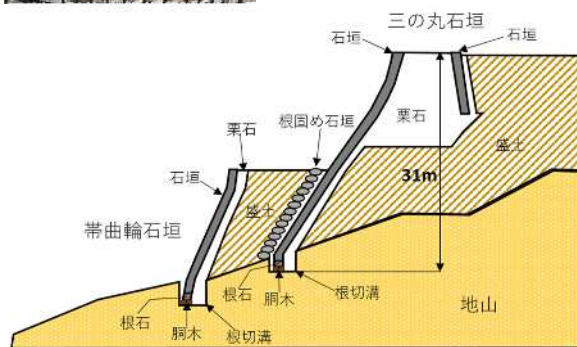
高さ31mもの石垣積上げ工事は、石垣の復旧事例では日本で初めての高さであり、まさに江戸時代にこの石垣を築いた先人たちの苦労や技術力を、身を持って体感するような難工事が予想されますが、「あの美しい石垣をもう一度」を合言葉に、一石一石着実に進めてまいります。

崩落土や崩落石の撤去、回収を行っていく中で、「埋没石垣」の存在や、三の丸石垣が地中深くまで続いていることなど、対処すべき想定外の問題が幾度もありました。

一方で、「埋没石垣」は文献資料に記された江戸時代の石垣崩落を裏付ける遺構であること、また、石垣最下段の根石や基礎構造が確認されたことで、地中部深く続く三の丸石垣が高さ31mもの石垣であったことなど、歴史的な発見の連続でもありました。



←三の丸石垣斜面で見つかった埋没石垣(石垣復旧PR館前に展示中)



崩落前の石垣断面図

石垣を積上げる前の下準備

石垣を積上げるためには、その下準備として様々な作業が必要となります。



旧城内グラウンドに並べられた築石には、元の場合へ積上げるために、1つ1つに石材番号が付けられ管理されています。



損傷が激しく、他の場所でも再利用できない石材は、備讃瀬戸の島々から石材を調達し、元の石材と同じ形へ加工し使用します。



栗石は、築石の裏側に配置されるもので、石垣の雨水排水の要です。回収時に付着した土砂などをふるい落とすうえで、水で洗浄し、よりきれいな形で石垣の裏に敷き詰められます。



盛土は、回収した崩落土や、不足する場合は新たな花崗土(かこうど)を使用し、必要な強度、品質が保たれるように、水分や必要最小限度の固化材などを混ぜ合わせる作業が必要です。

丸亀キッズウィークでのイベント開催

10月19日に、「丸亀こどもデー」の一環として、石垣復旧現場で「丸亀城石垣復旧工事に参加しよう！」と題した小学生向けのイベントを行いました。

このイベントは、丸亀城の歴史や石垣復旧工事についての説明の後、栗石に自由にメッセージや絵を書いてもらい、実際に自分の手で石垣の裏に詰めてもらうという内容です。

参加された方からは、「自分も石垣復旧工事に携わったという実感が沸いた」「将来まで自分の書いたメッセージが残るのが嬉しい」など、大変ご好評をいただきました。

